

～『盛岡駅前ホコ天から考えるウォーカブル都市』～

令和6年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：盛岡駅前道路におけるウォーカブル空間創出の課題と効果に関わる基礎的研究

研究代表者：総合政策学部 宇佐美誠史

課題提案者：盛岡馬車みち会議

研究メンバー：高橋大、吉田基、宇佐美ゼミ（石川湧音、井上祐佳、菊池莉央）

技術キーワード：ウォーカブル空間、歩行者天国、盛岡駅前

▼研究の概要（背景・目標）

日頃はただ通過する自動車交通量が多い盛岡駅前通りの140m（盛岡駅前から開運橋西）が、時間を区切り歩行者天国にし、様々な盛り上げ企画により、人々が楽しめる空間になる「モリオカ駅前開運ホコ天」が開催（R6は2回）されている。この機会を利用し、関係者で実施する調査などでホコ天の効果や課題を掴み、恒久的なウォーカブル空間のあり方を検討するための第一歩としたい。

▼研究の内容（方法・経過）

本研究では、以下の活動を行った。内容に関しては、関係者が集まる企画運営会議で検討した。

◆ゼミ生達の企画・調査

会場を歩きながら盛岡を学べるクイズラリーや来訪者が居住地調査、ウォーカブルに関する聞き取り等を実施した。

◆関係者で実施したアンケートや交通量調査

来訪者の属性やウォーカブルに関するアンケート、自動車の通行を止めることによる影響を調査した。

▼研究の成果（結論・考察）

◆ゼミ生達の企画・調査

盛岡以外からの訪問者がホコ天に多く立ち寄っている。西日本や海外からも。クイズラリーで、駅前商店街をより知ってもらうきっかけとなった。

◆車両通行止めによる道路交通への影響

旭橋付近で車の流れが悪くなっていたが、その他は良好。交通規制地点直前の迂回行動に繋がらないようにするための情報提供の必要性。

◆来訪者アンケート

30～50代が多い。ほとんどが次回のホコ天に行きたいと回答。自由記述からも、開催数増加や大通り商店街との繋がりなど前向きなコメントが多かった。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

◆盛岡の駅前を歩行者天国にしたことによる自動車交通への影響はあまり見られず、バス交通についても、迂回運行がスムーズに行われていた。

◆様々な場所から来訪者が多く、盛岡駅前のウォーカブル空間を楽しんでもらえ、今後の展開が期待されている。

◆ホコ天の恒久化に向けての議論は、あまりできていなかったが、R7は3回開催と過去最大の開催数となる予定である。開催時期による違いを知る良い機会となる。現在は午後から夕方の開催となっているが、夕方以降など時間帯を変えることや2日連続開催なども考えられ、それぞれの機会に一つでもホコ天の恒久化に向けた取組、議論を期待したい。また、暑い時期には、日陰で休めるなど快適な空間づくりが必要と思われる。

最後に、本機会を提供していただいた盛岡駅前商店街振興組合をはじめ、企画会議に参画された関係者のみなさまに謝意を表す。



盛岡駅前開運ホコ天の会場



ゼミ生企画（駅前クイズラリー・来訪者居住地シール貼り）

▼（自由記述）盛岡駅前開運ホコ天の前向きな意見

- ・楽しい・賑わい・満足（多数）
- ・継続・回数増やして（多）
- ・連携・広域化への期待（中）
- 「大通りまでのコラボでお願いしたい」「木伏とコラボしたらもっと楽しそう」「周辺イベントと日程を合わせてまた行ってほしい」
- ・運営・ボランティア評価（中）
- 「皆さんが親切で優しくかった。ありがとうございます」
- 「学生さんの対応が元気いっぱい良かった」
- ・子ども・家族で楽しめた（中）
- 「子どもも楽しめる出店があって嬉しい」「子どもと良い時間が過ごせた」
- ・歩行者天国の意義（中）
- 「普段車が往来する駅前が一変して楽しい」「完全歩行者優先はグッド」